

平成29年度 香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 会議概要

開催日時： 平成29年11月17日（金） 午後2時00分から3時50分

開催場所： 香取市役所5階 大会議室

出席者： <委員>

浅野文男委員、 高岡正人委員、 大川裕志委員、 金親孝夫委員、
菅谷長藏委員、 山本一郎委員、 圓藤弘典委員、 堂下浩委員、
関謙次郎委員、 大川敏夫委員、 安達伸二委員、 石井滋喜委員、
栗田智委員、 中嶋敏彰委員、 鵜崎良雄委員、 菊池新吾委員、
平塚智子委員

<事務局>

総務企画部企画政策課

欠席者： 武田好久委員、 石井良典委員、 實川美香委員

協議事項： (1) 総合戦略における新たな取り組みについて
(2) 施策の実施状況について
(3) 平成28年度KPI（重要業績評価指標）の達成状況について
(4) 地方創生交付金事業における実施状況について
(5) 数値目標の達成状況について
(6) 総合戦略の見直しについて

配付資料：・会議次第

- ・平成29年度香取市まち・ひと・しごと創生推進会議委員名簿
- ・香取市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
- ・平成29年度香取市まち・ひと・しごと創生推進会議資料（資料1）
- ・施策の実施状況について（資料2）
- ・平成28年度KPIの達成状況について（資料3）
- ・地方創生交付金事業における実施状況について（資料4）
- ・香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年度版）
- ・香取市人口ビジョン

議事内容：

1 開会

2 会長挨拶

それでは、開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日は、委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところを、お集まりをいただきありがとうございます。

さて、少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少を克服することを目指して、当時の高校生委員にも参加していただいたうえで、平成27年度に策定した「香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略」ですが、3年目にあたる今年度は、計画期間である5年間で折り返す中間の年となります。

このため、本日の推進会議では、平成28年度までの施策の実施状況や数値目標の達成状況などの検証のほか、計画期間の後半に向け、さらに総合戦略の実効性を高めるため、施策等の見直しについても協議をしてまいりますと考えております。

現在、私は、第2次香取市総合計画という別の計画策定に審議会会長として携わっておりますが、このなかで、市の現状や課題については、アンケート結果や市民ワークショップなどの意見として伺っております。市に不足している交通インフラや地域医療の充実に向けた課題のほか、改善の見られない人口減少問題、地域産業の活性化など、市にとっては厳しい状況が続いているといった印象を受けております。

このような状況を改善するため、総合戦略の推進は不可欠ですが、推進にあたっては、市民や関係団体、行政が一体となって、課題の解決に向け、取り組んでいかなければならないと考えております。

推進会議の委員の皆さまは、幅広い分野から参加いただいておりますとともに、それぞれの分野での豊富な経験をお持ちです。ことから、本日の会議では、様々な視点からの検証のほか、総合戦略の取り組みへのご意見、新たなアイデアなども期待しております。

結びに、委員の皆さまから、ご忌憚のないご意見やご提案をいただき、実り多い推進会議となりますことを心から祈念申し上げ、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

3 新委員の紹介

- ・日本政策金融公庫 千葉支店 菊池 新吾 支店長
 - ・千葉県 香取地域振興事務所 栗田 智 所長
 - ・かとり農業協同組合 武田 好久 代表理事組合長
- 以上3名が、新委員として就任したことを事務局から紹介。

4 協議事項

議事（1）総合戦略における新たな取り組みについて

参考資料1に基づき、「香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「香取市人口ビジョン」の概要について説明後、総合戦略における新たな取り組みについて、以下の4つの取り組みを事務局から説明。

- ①香取市版DMO（観光づくりプラットフォーム）の設立支援、②佐原の山車行事のユネスコ無形文化遺産への登録、③佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業④バスターミナル整備事業

【A 委員】

1 番の香取市版 DMO の設立支援について補足になるが、主になるのは、古民家宿泊事業でして、今 NIPPONIA SAWARA の方で進めているが、当初計画よりやや遅れている状況。古民家 4 部屋、ホテル、レストラン、カフェの整備は終わる目途がついている。2 次開発としてお部屋を追加して古民家 10 部屋でオープンしたい意向で動いている。11 月に運営会社であるバリューマネジメントと NIPPONIA で契約し、来月くらいには広報など準備をして、来年 3 月にプレオープン、正式に早ければ 6 月以降、一般入室を開始といったスケジュールで考えている。

【議長】

観光客を誘致するといったマーケティング活動は行政では苦手な分野ですので、ぜひ、この DMC をとおして、一段と香取市エリアに多くの人を呼び込むよう進めていただきたい。

議事（2）施策の実施状況について

資料 2 「施策の実施状況について」、資料 1 の 12 ページにより表の見方を説明後、資料 2 の取り組みのうち、前年度から取り組み内容や評価に変化があったもの及び評価が「C」以下のものを中心に、事務局から説明。

【B 委員】

「産科医療体制整備の検討」について「B」という評価は調査を実施したから「B」という評価なのか。実際のところ産科医療体制については、現状どうなっているのか。また、今後、子供を増やすためには産科はなくてはならないと思うがその点は、市としてどのように考えているのか。

【事務局】

平成 27 年度の市民意識調査でも、地域医療の充実については、「重要度が高く、満足度が低い」という結果となっており、今年度の市民意識調査でも同様の結果が出ています。産科医師の確保による地域医療の充実というのが、市の最重要課題であると認識しており、今年度は、市場調査を実施したいと考えております。

なお、基礎的な調査に着手いたしましたが、平成 29 年度、30 年度と市場調査、誘致に向けたマネジメント業務などの実施を検討しており、評価でいうと、ここまで進んだ場合には、「B」という評価でも良かったかと思えます。このことから、評価としては「C」が適当であったかと思えます。

【C 委員】

特に香取市では、子供の数、出生率も含めて、年々、出産する子供の数が減ってきている。今後、この数は予測以上に進んでいく可能性が高いのではないかと思われる。それは、ひとつは産科がない。あと、この資料には載っていないが、保育で言えば、病児・病後児保育（施設がない）。子供を保育に預けているときに、急に発熱して、迎えに来よう呼び出されても、仕事を休んで迎えに行けない状況がどこでもあると思う。その対応がまだまだ遅れているというのが、非常に重要なポイントで、遊び場がないというのも含めて、子育て環境が不十分であり、今後の市として大きな課題であろうと思う。小児科医・病院についても、もう少し充実していても良いと思う。病後児保育所が各所に作れないのであれば、例えば、富山市の場合では、病児保育所が作れないのであれば、その機能を持った施設を一か所整備し、タクシーの無料券を使用し、その病児保育所に無料で送り届けてくれるような施策を実施していた。この辺は、交通機関が十分ないので、タクシー等を利用して機能を充実させていくことが非常に重要なポイントだと思う。今後、いろいろな知恵を出し、特に産科は非常に重要なことなので、その計画を進めていっていただきたい。

なお、評価が「B」というのは、そもそも評価の基準もどうかと思うが、方針・具体策を検討するだけでは、実現できない問題と考える。

具体的なこととしては、プロジェクトチームを立ち上げるとか、そこに特化した人たちが実際の計画にあたり実現に向けたルートを作ることが大事と考える。

【議長】

先の総合計画審議会でも地域医療の考え方等について、単なる調査ではなく、マーケティング等の具体的な調査の実施などを提言したが、その後、市として予算の問題や今後の進め方など、進展はあったのか。

【事務局】

先の総合計画審議会における提言を受け、医療機関等に関する市場調査を含めて、本年の12月補正で予算要求をいたしております。今後、予算承認後の1月～3月にかけて市場調査を実施したいと考えております。

また、来年度の当初予算で予算成立前ではありますが、この市場調査の結果をもとに、翌年度は、市場性がある前提ではありますが、具体的な産科の誘致について、専門のコンサルタントも使いつつ、有識者等で構成する委員会を立ち上げたいと考えております。

【議長】

行政では、強い問題意識をもって取り組んでいるというのは理解できた。今後の期待も込めてということで、条件付きで「B」評価としたい。また、調査の結果等は、この会議でも報告していただきたい。

【D委員】

資料2の取り組みの「宿泊施設の充実」の中で、佐原駅周辺に民間事業者によるホテルが今年度中に工事着工とのことであるが、具体的なスケジュールがわかれば教えていただきたい。また、規模及び選定された事業者名がわかれば教えていただきたい。

【事務局】

具体的な工期・スケジュールを把握しておりませんが、当初、今年の8月、9月の工事着工との話もありましたが、スケジュールが遅くなっている様子で、以前、企業誘致を担当しております商工観光課より伺った際には、早ければ、12月の着工、来年秋頃の竣工とのことでした。また、客室数は、190室ほどで、運営事業者はルートインホテルズと伺っております。

【A委員】

「SNSを利用した情報発信」について、当面の実現は難しいということだが、スマートフォンを活用した情報発信サービスを民間事業者の利用などにより実現できると思うが、民間活用に対する意見はあるか伺いたい。

【事務局】

行政が、SNSを活用し、様々な情報を発信することは、おもしろみに欠けた情報になる傾向があることから、いろいろな団体、主体の方々を取り込んで、媒体等も含めてどのような方法で実施するかなど、踏み込んだ議論が必要と考えます。現在、情報関連企業から、魅力的な手法も紹介されておりますが、今後、検討してまいります。

【議長】

なかなか行政では苦手な部分もあると思うので、民間に委託するところは委託して、また、観光客を呼び込むことになる国内だけではなく、多言語への対応などもあるため、ぜひ、民間の活用も含め、戦略的に取り組んでいただきたい。

議事(3) 平成28年度KPI(重要業績評価指標)の達成状況について

資料3「平成28年度KPI(重要業績評価指標)の達成状況について」、事務局から説明。

【C委員】

19番の「ファミリーサポートセンター会員登録者数」についてだが、登録者数が減ってきている。県内の市川市の事例を申し上げますと、この事業で会員数が5000人強であり、(香取市は)人口の割合からしてもあまりにも少ない。すでに市川市では民営化されていて、この事業の本部の運営をNPO法人が運営している。たとえば、清見屋跡地に整備する子育て支援施設センターへ機能を移行するとかした方が良い。やはり市役所の中の事務が窓口になっているとおそらく増えていかない。どんどん民営化していった携わる人が増えていくこと重要なポイントだと思う。

【議長】

今後、事業手法の見直しも検討し、民間委託なども含めて進めていただきたい。また、成功している先行自治体を参考にして、香取市にうまく運用して進めていただきたい。

【C委員】

これだけの人数しか登録されていないということは、そもそも利用できない。保護者は、早出、残業などで送迎ができないときがある。親族や友人が頼れない場合は、ファミリーサポートセンターに登録することで、穴埋めさるといった重要な役割を持っている。登録者がいないということは、利用していないということ。利用しないのは、時間あたりの利用料が高すぎるというのが理由としてあると思う。香取市は一時間あたり、たしか700円。市川市は500円まで下げている。700円で長時間、毎日となると保育料がすごい金額になる。基本料金が高すぎるから利用しないというのも理由だと思われる。その点もよく検討していただきたい。これを有効活用すればそれなりの需要があると思うが、まず掘り起こされていない事と周知されていないというのが、この結果となっていると思う。

【議長】

単に数値を上げるというだけではなく、制度自体の工夫の仕方も考えながら、目標の達成に向けて推進するというので、評価は「C」のままでよろしいか。また、今回の意見は、担当部局に伝達していただきたい。

議事(4) 地方創生交付金事業における実施状況について

資料4「地方創生交付金事業における実施状況について」について事務局から説明。

【議長】

4つの事業が掲載されているが、このうち加速化交付金の1が広域行政の事業でよいか。また、その他3つの事業は香取市が対象の事業ということでよいか。

【事務局】

1については、参加した自治体それぞれが交付金の対象となっています。その他は、香取市が単独で対象となっている事業となります。

【B委員】

加速化交付金の2「香取市版DMOの創設支援」とあるが内容は。

【事務局】

香取市産農産物を観光とのコラボレーションで販売する取り組みです。食材の料理への利用や農産物のブランド化など、観光客へ情報発信し、市の農産物を知っていただくことをコンセプトに実施した。具体的には、コンサルタント等を活用し、販売方法をコーディネートしたほか、ブランド化の手法やブランド化のメリット、デメリットを整理し、関係者の意欲を向上させる仕組みをつくり、今年度以降、定着させるための最初の取り組み

を行いました。

【C委員】

「薪需要の創出」とあるが、例えば、バイオマスの活用については、北欧では、薪ではなく、チップ化したペレットを使用するのが中心だと思うが、薪をこの地域でやるというのがどうなのか。加工する設備等もあるだろうが、この地域でやるのであれば、薪を使う人をどのように増やすのかということも含めて、もう少し細かい検討が必要ではないか。

【事務局】

総合戦略のKPIの中に「温出効果ガスの削減」という項目があります。実際、暖房器具として薪ストーブなどを使用の際に、燃焼効率や温度調整など考慮すると、確かにペレットの方が扱いやすいと思われていますが、ペレットの作成過程での温出効果ガスの発生を考慮し、作成過程を省き、直接、山林から確保できる薪で、需要を喚起していくことが、今回の事業の建付けとなっております。ただし、ご覧のとおり、結果としては思わしくないもので、今後、薪の方が良いのか、それともペレットの方が良いのかという点も考えつつ検討していきたいと思えます。

【議長】

香取市の総合戦略においては、循環型社会の確立という観点のため、森林の需要を増やすということではないが、一方で、C委員の言うとおりの林業の振興の観点も必要だと思う。それは、今年7月の九州北部の豪雨の災害でも、流木が被害を拡大して、結局、それは間伐の手入れが行われなかった森林の地域であり、崩落の被害が拡大したということがあった。林業の振興がある種、防災としての機能を持ち、広い意味での住みよい社会、地域での安心の提供につながるといった防災の観点で、薪にこだわらず、林業の振興を進める必要があるのではないかと思う。

薪需要の創出の施策については、事業効果の判定で、効果はあったとの評価ではあるがよろしいか。林業の振興の点については、今後、担当部局にあらたな施策の立案も含め、考えるよう指示していただきたい。

議事（5）数値目標の達成状況について

資料1：「数値目標の達成状況について」について事務局から説明。

【議長】

少しでも数値を上げるよう、総合的に施策に取り組んでいかないと、非常に先行きが暗い状況となっているように感じてしまう。ぜひ、目標数値すべてを達成するよう、知恵を絞り各部局が一丸となって取り組んでいただきたい。

議題（6）総合戦略の見直しについて

資料1：「総合戦略の見直しについて」事務局から説明。

【C委員】

さきほどのファミリーサポートセンターにも関わる話であるが、病児・病後児保育について、これは、アンケート調査などでも必要性については出てきていると思うが、例えば、お子さんを保育に預けている場合で、子供が発熱した場合、すぐに迎えに来るよう連絡が来る。すぐに迎えに行けるような職場であれば良いが、すぐに迎えに行けない場合、どうしたらよいのか。ひとつは、病後児を預かれるようなセンター的な場所、そこには看護

師も必要、小児科医の関与も必要かと思うが、例えば、そういったものをファミリーサポーターが行うのか、もしくはそういった施設を作って、緊急に対応できる対策が必要なんだろうと思う。これから、共働き世帯が増えていく中で、お子さんを保育に預けながら仕事を続けていくうえで、とても重要な事務だと思うので、ぜひ検討していただきたい。例えば、新しい子ども園や新しい園舎を作るときに病後児保育室を設置して、ほかの保育所で病児が出たときに、その子をそこのセンターに、例えばタクシーの無料券を使って連れてきてもらうということであるとか、それは市内にたくさんするのは経営的にも難しいと思うが、今現在1か所もない状況をどうにか改善するためには、そういった集中的に対応できる対策が必要と思うので、ぜひ検討いただきたい。実際、富山県富山市でその事業を展開しているので、各保育所でそういった保育士の確保も難しい状況もあり、ぜひ、こういった形でのサービスを検討していただきたい。

【議長】

地域子育て支援センターの利用者数が、非常に達成率が高いので、一段と目標値を上方修正するということが、そういった数値だけではなく質の部分も向上させていくことが、今後とも必要と思われるので、引き続き検討していただきたい。

5 その他

【事務局】

今年度の推進会議は終了となることを事務局から説明。

6 閉会

事務局の司会進行により、閉会。

以上